

高市自民党の大勝の日本

野口幹夫

2月8日の夜、選挙の結果を知りたくてテレビをつけたとたん、NHKは自民党大勝と発表した。がっかりしてそれ以上見ないで切って寝る支度に入った。その時の印象は「あきれた、なんと日本の国民の愚かさよ」だった。

その結果は誰もが予想しなかった自民党単独3分の2獲得だった。

それから1週間いろいろの影響についてのニュースを見て、考えを和らげた。

世代別の支持政党の分析があった。我々70歳以上の高齢者は反自民で、今回の自民圧勝の主役は50歳以下の若年層であった。その色分けのはっきりしていることが今回の特徴でもあった。一言で言って「世代交代」である。

それならば、その視点にたって、今回の結果を再評価しななければいけない。

高市首相の自民党が単独3分の2獲得で好きなことができる。

その方向は、まず憲法の改正で自衛隊の国軍昇格からはじめ、軍備の拡大、スパイ防止のための国家情報局の開設、さらには徴兵制の復活と、それまでの委縮した平和国家日本を、普通の国日本にする路線を進むことになろう。

国民の負担の増加や国家への忠誠義務なども引き受けるけなげな心構えだ。きっと「積極的財政政策」で日本の産業も復活し、その底力の工場で、世界での日本の評価も変わるという期待をこめているのかもしれない。

その選択をしたのは、我々の世代の評価からすれば、戦争のみじめさを知らない世代の浅は

かな選択とかんがえてしまう。が、……そのような評価をする世代はもう御用済みで引っ込んでいなされということですか。わかりました。

戦後 80 年 すっかり世界情勢も変わってしもた。科学技術も進歩した。日本も新しくならねばならないと現役の若い世代が考えはるなら、その道を尊重しまひよ。彼らは我々より賢いんですわ。PC やスマホなどの情報機器にせよ、彼らに教えてもらわねばならなりません。きっとその道で日本を破滅には導かないと信頼しまひよ。

とことん好きなようにやりなはれ、高市総理よ

とここまで書いてこれで閉じるのもちょっと心残り。ちょっとだけ本音を言わせてもらいます。この現象について、もし哲学者ベルグソンに言わせれば、それは人類の未進化・未完成段階の産物、「閉じた社会」「閉じた国家」での正論である。やがて何世紀か先に人類の次の進化が起きて、その結果おきる「開かれた社会」になれば、国境は消え、それまでの国家論が消滅、全人類が一つになる宇宙時代が来る。それへの努力は人間にしかできない。そしてそれを主に担うのは経験を積み宇宙の創造主とその人類の参与を知る高齢者の役割なのだ。我々はこの面では引退するわけにはいかない。